

ミクロ・マクロ経済学演習 復習問題(第14回)

2014.1.15 担当：河田

学籍番号 _____

氏名 _____

※ 1月20日(月)17時までに、河田研究室(514)まで提出すること。

※ 途中の式や思考過程はそのままにしておくこと。

1. ある国のマクロ経済が、

$$Y = C + I + G$$

$$C = 40 + 0.7(Y - T)$$

$$I = 80 - 6r$$

$$T = 0.2Y$$

$$L = 100 + 0.4Y - 10r$$

$$M = 220$$

$$P = 1.1$$

$$Y_F = 300$$

で示されるとする。

このとき、政府支出により完全雇用を達成するために必要な政府支出はいくらか。

ただし、物価水準は一定であるものとする。

1 : 20

2 : 21

3 : 22

4 : 23

5 : 24

Y : 国民所得, C : 消費, I : 投資,
G : 政府支出, T : 租税,
r : 利子率(%), L : 貨幣需要量,
M : 名目貨幣供給量, P : 物価水準,
Y_F : 完全雇用国民所得

(国税専門官 1998)

2. ある国の経済が、

$$Y = C + I + G$$

$$C = 10 + 0.6Y$$

$$I = 90 - 1200r$$

$$L = 100 + 0.5Y - 1000r$$

$$\frac{M}{P} = 200$$

$$G = 20$$

Y : 国民所得, C : 消費,
I : 民間投資, G : 政府支出,
r : 利子率, L : 実質貨幣需要,
M : 名目貨幣供給, P : 物価水準

で表されるとする。政府支出 G が 40 に増加したとき、民間投資 I はクラウディング・アウトによっていくら減少するか。

- 1 : 12
- 2 : 14
- 3 : 16
- 4 : 18
- 5 : 20

(国税専門官 1995)

3. 政府と海外部門を捨象したマクロ経済モデルが次のように与えられている。

$$C = 30 + 0.6Y$$

$$I = 20 - 2i$$

$$L = 0.2Y - 4i$$

$$\frac{M}{P} = \frac{400}{P}$$

この経済の総供給関数が、 $P = \frac{1}{6}Y$ で与えられるとすると、総需要曲線と総供給曲線の均衡点における国民所得と物価水準はいくらになるか。

	国民所得	物価水準
1 :	60	10
2 :	120	20
3 :	180	30
4 :	240	40
5 :	300	50

(国家Ⅱ種 2005)